

第38回
“水とのふれあい”フォトコンテスト
佳作作品



タイトル：凍てつく滝
撮影場所：神奈川県南足柄市 夕日の滝
撮影者：小澤 宏

CONTENTS

- 02 巻頭言 新年のご挨拶
水資源機構 理事長 金尾 健司
- 04 特集 福岡導水通水40周年
- 10 トピックス 水の天使 琵琶湖近江路探訪
2023ミス日本「水の天使」 竹田 聖彩
- 14 トピックス
若手職員の人財育成を目指して
—「人財育成室」開設と取組みのご紹介—
- 16 トピックス
わたしが思うダムの魅力とは
女性技術者の座談会
- 17 トピックス
読者モニター意見交換会 in 豊川用水
- 18 シリーズ 第3回 未来の水のプロにつなぐ
- 20 連載 気象キャスターが解説! 天気のみカタ
第35回 新潟におけるフェーン現象
気象キャスターネットワーク 加藤 直樹
- 22 水機構ニュース
- 24 モニター様の声・施設紹介・編集後記

新年のご挨拶



独立行政法人
水資源機構
理事長

かな お けん じ
金尾 健司

明けましておめでとうございます。

NASAなどの世界の気象関連機関は、昨年夏の世界平均気温は、観測史上最も高くなったと発表しました。

洪水調節容量をほぼ使い切るギリギリの防災操作により、下流域の洪水被害の軽減に効果を発揮しました。

また、利根川水系の矢木沢ダムでは8月中旬には貯水率約35%まで低下し、平成28年以来となる渇水の危機が高まりました。11月には少雨により淀川水系の日吉ダム、一庫ダム、四国の吉野川水系銅山川のダムの貯水率が低下し、一部取水制限が実施されました。

水資源開発施設の建設・改築については、今年度から新たに筑後川水系ダム群連携事業を国土交通省から承継するとともに、筑後川下流用水総合対策事業、寺内ダム再生事業、旧吉野川河口堰等大規模地震対策事業に着手しました。

また、川上ダムは昨年4月から管理運用を開始するとともに、平成26年度から進めてきた利根導水路大規模地震対策事業が今年度末に完了する見込みで、平成27年度に事業完了した武蔵水路改築を含め、利根導水路の一連の大規模地震に備えた対策が完了を迎えます。

さらに、吉野川水系の治水機能強化を目的とした早明浦ダム再生事業は、ダム堤体に新たに設置する放流設備の工事が本格的に

地球規模の気候変動がもたらす異常気象は、世界各地で記録的な気温上昇を招くなど年々顕著になり、大規模な山火事の発生、極端な大雨がもたらす洪水、少雨による干ばつなど甚大な災害が毎年のように発生しており、昨年7月国連のグテーレス事務総長は会見で「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と述べました。わが国でも、昨年は全国各地で観測史上記

始まりました。

最近の情勢として、気候変動に対応した治水機能の確保・向上や、カーボンニュートラル（水力発電）、地域振興といった社会的要請に対して、国が^{※1}ハイブリッドダム構想を打ち出すなど、ダムの役割強化が求められています。それには、事前放流や発電強化のための貯水池運用など、ダム操作の高度化が必要と

従来から取り組んでいる^{※2}アンサンブル降雨予測を活用したダム操作の高度化に関する研究は、今年度から次の段階に入るとともに、新たにダム貯水池に堆積している土砂の深さ方向の性状や量を非接触により把握する技術研究を始めました。

業務の効率化・高度化や働き方改革の実現に向け、引き続き重点的に^{※3}DXに取り組みます。ダム・水路の施設管理等において、飛躍的な進歩を続けるAI等の最新技術を導入し、早期の実装を目指して検討を加速化していくとともに、事務部門においても、状況の変化に対応する業務プロセス見直しのため、IT技術の一層の活用に取り組んでまいります。

水資源機構は、ダムなどの水源施設から水

録的な高温が続くとともに、線状降水帯がもたらす局所的な大雨による洪水や少雨による渇水被害が、全国各地で時を同じくして発生しました。

筑後川水系の寺内ダムでは7月10日未明に停滞した梅雨前線がもたらした線状降水帯の発生により、平成29年九州北部豪雨に次ぐ流入量を記録する豪雨となり、管理開始から45年目で初めてとなる緊急放流に至るも、

路ネットワークまでを一体的、広域的に管理し、国民生活や社会経済活動に欠かせない水の安定供給と洪水から国民の生命と財産を守るという重要な使命を担う組織です。

近年の気候変動による渇水や異常洪水などの気象災害リスクの高まりへの対応、カーボンニュートラルといった地球温暖化への対応、大規模地震の切迫、待ったなしの老朽化対策など、現在、機構を取り巻く状況は非常に厳しさを増してきています。

こうした諸課題にしっかりと対応すべく、業務を効率化し、培ってきた技術を維持向上させ「水のプロ集団」としての人財の育成と研鑽を重ねることで、組織力を向上することを通じて、引き続き水資源開発施設の適切な管理・建設に努め、社会に貢献してまいります。

本年が皆様にとって良き一年となり、本年が皆様にとって良き一年となり、併せて皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

※1: 治水機能の強化と水力発電の促進を両立させるダム
※2: 降雨予測の不確実性の程度を把握する手法
※3: デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへ変革すること

